

令和7年度使用教科用図書調査専門委員会 調査研究報告書 観点・着眼点（ 種目名 美術 ）

観 点		着 眼 点
1	学習指導要領との関連	対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにするための工夫・配慮の程度はどうか。
		造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにするための工夫・配慮の程度はどうか。
		美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培うための工夫・配慮の程度はどうか。
2	「コンパスぶらん（第4期名古屋市教育振興基本計画）」との関連	「自分に合ったペースや方法で学ぶ」ことができるような工夫・配慮の程度はどうか。
		「多様な人と学び合う」ための工夫・配慮の程度はどうか。
		「夢中で探究する」ための工夫・配慮の程度はどうか。
3 内 容	(1) 内容の選択	人権の尊重や教育の政治的中立に関する配慮の程度はどうか。
		日本の伝統や文化、現代の社会生活の変化や今日的課題等を踏まえた題材や教材の精選についての程度はどうか。また、身の回りの生活や社会の中の美術文化と豊かに関わる教材の選択についての適切さはどうか。
	(2) 内容の程度	発想や構想に対応できる多様な表現や材料や道具の扱いについて、取り上げ方の適切さはどうか。また、補充的な学習や発展的な学習の内容の適切さはどうか。
	(3) 内容の構成	内容の関連・系統的な組織立てについての適切さはどうか。また、各内容の分量及び配列のバランスの適切さや、図版・図表・写真とその説明の内容・配列・分量の適切さはどうか。
4	タブレット端末の活用	タブレット端末を活用して学習の効果を高めるための工夫の程度はどうか。
5	表記・表現及び使用上の便宜等	安全面への配慮の適切さはどうか。また、本文記述と図版・挿絵・イラスト・写真・図表等の関連の適切さや目次・注・資料等の工夫の程度はどうか。
6	印刷・造本等	「ユニバーサルデザイン化の観点から印刷の鮮明度、文字の大きさ、書体、色彩等」、「造本の堅ろうさや体裁」、「再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮」など印刷造本等の工夫の程度はどうか。

令和7年度使用教科用図書 調査専門委員会 調査研究報告書（種目名 美術）

観点	発行者	開隆堂		光村図書		日本文教	
		評価	特徴	評価	特徴	評価	特徴
1	学習指導要領との関連		キャラクターの発言や、図版「美術の用語」等により造形的な視点や知識等の理解を支援している。また、巻末の「使える知識広がる美術」のページでは、表現技法や用具の扱い方をまとめている。		造形を豊かに捉えるための視点を養う「POINT」を各題材に示している。また、別冊資料に18の技法動画を掲載し創造的に表すことができるよう配慮されている。	○	鑑賞の入り口を基に、造形的な視点に気付かせるとともに、図版に造形的な視点や効果を吹き出しを用いて示すことで、生徒自身が創造的に表すことができるよう工夫されている。
			主題を生み出す発想・構想の手掛かりとして、生徒作品に「作者のこぼし」を記載し、制作の手掛かりになるよう配慮している。折込を生かした紙面により、鑑賞の視点を問いかける形で示している。	○	題材の制作過程の様子が分かる「みんなの工夫」を示し、アイデアスケッチや作者の言葉を基に、生徒がどのようにして発想や構想を深めていったのかが理解しやすい構成としている。また、多様な美術文化を学ぶことのできる解説動画も用意されている。		思考のプロセスが分かるアイデアスケッチを多数掲載したり、発想・構想のヒントとなる「表現のヒント」をすべての題材で掲載したりすることで、豊かに発想・構想ができるよう構成されている。
			生活や社会の中の優れた美術や美術文化を多様に取り上げ、より身近な視点で美術や美術文化を学ぶことができるよう配慮されている。		中学生が親しみやすい生活の中の身近な美術作品やデザインを多数選定している。また、オリエンテーションや「美術の力」などから豊かな感性が育まれるよう配慮されている。	○	巻頭に著名人のメッセージを掲載したり、街中にあふれる様々な美術を取り上げたりして、美術を愛好する心情や、心豊かな生活を作り出そうという態度を養うことができる内容になっている。
2	「コンパスぶらん（第4期名古屋教育振興基本計画）」との関連		題材の中で知識・技能、発想・構想や鑑賞を分かりやすくまとめることで、自分に合ったペースで学ぶことができるようになっている。		題材によって「みんなの工夫」を掲載し、様々な表現方法の中から自分に合った方法を見付けることができる。他教科との関連を意識した構成となっている。		各題材で何をどのように学ぶかという項目がはっきり示されているため、活動の流れが分かりやすく、自分のペースで学習を進めていくことに適している。
			生徒同士の議論や対話を通して、新たな気付きを広めたり、深めたりすることができるような学習方法が題材に応じて提示されている。		はじめに鑑賞活動を提示するとともに、対話を促す問い掛けが提示されている。また、他者と対話しながら制作する様子の写真を多数掲載し、多様な人と学び合う工夫がされている。		それぞれの題材で他者と協力して学んだり、対話したりしている写真を掲載している。また、巻末資料には、対話を通して発想や構想を広げられるような学習方法が示されている。
			巻末の「学びの資料」では、様々な表現技法を紹介するだけでなく、美術史のページやSDGsに関連する事柄を取り上げて、より広い視野で探究することができるように工夫されている。		別冊資料や「学習を支える資料」の中で、題材に関連する事柄の補足をしたり、美術館や地域の伝統衣装等を紹介したりして、興味をもった事柄について探究できるようにになっている。	○	「学習を支える資料」や各題材の図版の中で、美術館の所蔵作品を採用したり、ルーセントタワー、名古屋城本丸御殿など、名古屋市内の身近なデザインなどを多数取り上げたりして、題材以外の部分でも夢中で探究できるようになっている。
3	(1) 内容の選択		インクルーシブな社会の実現に向け、デザインが担う大きな可能性について注目できるよう工夫されている。また、持続可能な未来に向け、SDGsの各ゴールの視点によって、各国の作品が掲載されている。	○	美術とSDGsの関係について触れ、世界中の人々が協力して取り組む必要のある目標と各国の作品が掲載されている。鑑賞では、作品の政治的観点ではなく、作品の制作過程に焦点をあてて紹介するなど配慮がなされている。		年齢や国籍、障害の有無などの違いを踏まえ、多様な人が使いやすい道具や設備を提示し、インクルーシブの考えを実現させるための美術の力や役割について示されている。
			「墨から生まれる」「余白の美」「時代と文化を超えて」「仏像が表す世界」など、単元の中で水墨画や浮世絵、仏像などの日本美術に触れるページが設定されている。	○	日本の絵画を楽しむ5つのキーワードを、①四季②動物③不思議④余白⑤構図とし、15ページにわたって示している。代表的な作品を扱い、キーワードに沿った解説がされており、東西文化交流の鑑賞ページへとつながる構成となっている。	○	「墨と水で多彩に表す」「浮世絵っておもしろい」「日本文化との出会い」「日本のわざと心を受け継いで」でページを連続させ、絵や彫刻、デザインの領域にわたり、日本文化に関連する題材や作品が示されている。
			教科書は、「絵や彫刻など」、「デザインや工芸など」、「学びの資料」で構成されている。各題材のページでは、大きな鑑賞作品から始まり、次に「発想・構想」「知識・技能」のページなどがあり、作品制作のときにどのような着眼点でそれぞれの活動に取り組むべきなのかが作品とともに示されている。また、SGDsの観点からの作品の掲載もある。		教科書は、「絵や彫刻」、「デザイン・工芸など」、「学習を支える資料」で構成されている。各題材のページは、はじめに鑑賞として作品が示され、ポイントとして着眼点が示されている。次に生徒が表現するためにどのようなアプローチが必要であるかが示され、最後に参考作品の鑑賞があり、題材の流れをつかみやすい構成になっている。		教科書は、「絵や彫刻など」、「デザインや工芸など」、「学習を支える資料」で構成されている。中学校3年間を見通して、各学年での発達や内容に合わせて教育課程の編成ができるよう題材が多数選択ができるよう示されている。各題材はおおむね2ページにまとめられ、導入・制作・鑑賞の指導の流れが分かりやすくなっている。ページ下部には、他の題材との関連や、道徳との関連ページが示されている。
4	(2) 内容の程度		各題材のページには、参考作品を補助する働き掛けが観点別に示されている。関連するページや、SDGsとの関連が多く示され、美術の用語や作者のこぼし、国宝や重文などを示すマークも使われている。4ページ構成の題材が多いが鑑賞部分の作品と次ページの展開につながりがあり感じられない。		作品制作の資料となる自然物の写真が多様な視点でそのもののよい表情をとらえられたものが多い。視覚から美しさとは何か、よさとは何かを感じさせることができる。「みんなの工夫」という中学生の制作の様子を詳しく示す項目やウェブコンテンツが設定されている。道徳科やSDGsとのつながり、道徳科以外の他教科とのつながりを示すマークが使われている。	○	3分冊構成になっているため、発達の段階に応じた内容の選択がしやすい。各題材のページには、学びの目標のほかに、＜鑑賞の入り口＞＜造形的な視点＞（表現のヒント）の項目があり、生徒がどんなことに着目すべきなのかが分かりやすく示す構成となっている。また、作者の言葉やSDGsとの関連を示すマークが設定されている。各教科や道徳科との関連が多く示されている。
			各題材の上部にワークシートや用具、技法の扱い方の動画等のデジタルコンテンツの一覧がまとめられている。ワークシートは生徒が個人で使用するにはダウンロード等が不便で使いづらい。		「体感ミュージアム」を採用し、作品に書き込んだり、拡大・回転させたりして、充実した鑑賞活動ができるよう工夫がされている。また導入に使える1分程度の音声ナビがある題材もある。	○	すべての題材で、2分程度の題材導入動画が用意され、何を学ぶかが提示されている。また、生徒作品を360度で見られたり、表現のヒントとなったりする表現動画が用意されている。さらに、ICTを活用して取り組むページにはマークが記載されており一目で分かるようになっている。
			用具の使い方は、安全面への配慮事項をマークと赤枠で具体的に示している。巻頭に日次、教科書の使い方が示されているが、2ページに圧縮されているため分かりづらい。先生と生徒のキャラクターを用い、題材の流れや学習のポイントを示している。		用具や表現の手助けとなる資料を別冊としてまとめており、3年間使用することができるようになっている。P6～8では、日次やマークの説明、教科書の活用の仕方が詳しく示されている。		用具の扱い方は、活動の中での安全面に関する注意点が分かりやすく、具体的に示されている。題材のページが図版、マーク、表現のヒントや造形的な視点などがバランスよくレイアウトされ、扱いやすいページ構成となっている。
6	印刷・造本等	○	表紙は触りたくなくなるような特殊加工がされ、美術作品に興味関心をもつことができるようになっている。UIDフォントを採用したり、文章の意味を捉えやすくなるよう、中学校以上で学習する漢字にはルビをふったりするなど多様な生徒にとって扱いやすい配慮がされている。		図版は、材質感や色彩などが忠実に再現されている。2・3年の日本の絵画の題材では、風合いのある用紙を採用しており、鑑賞活動が深まる造本の工夫がされている。特別支援教育への配慮として、図版と図版の間を開けたり、野線を引いたりして境界を明確に区別できるようにしている。		誰も見やすい配色やフォント、レイアウト等が意識された紙面となっている。原寸大の図版を載せ、本物に近い感覚で鑑賞できるような工夫がある。また、実質的理解を促し作品鑑賞するページでは、質感の違う紙を用い、高精細印刷が施されており、細部まで表現の特徴をつかむことができる。

※ 着眼点ごとに、特に優れている教科書には評価の欄に○をつけています

令和7年度使用教科用図書 調査専門委員会 調査研究報告書「各教科固有の追加調査事項」（種目名 美術）

発行者 事項	開隆堂		光村図書		日本文教	
	評価	特徴	評価	特徴	評価	特徴
身に付けるべき資質・能力が整理され、分かりやすく示されているか		各題材のページに、知識・技能、思考力・判断力・表現力（発想や構想・鑑賞）、主体的に取り組む態度の3観点が表示されている。また領域ごとに学びの視点を著名人のメッセージで示している。		各題材のページに、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に取り組む態度の3観点が表示されている。しかし、思考力・判断力・表現力において、鑑賞の観点を示していない。	○	各題材のページに、知識・技能、思考力・判断力・表現力（発想や構想・鑑賞）、主体的に取り組む態度の3観点を分かりやすく示した上で、＜鑑賞の入り口＞＜造形的な視点＞（表現のヒント）の項目があり、学習の流れが分かりやすく示されている。
生活や社会の中の造形を豊かに捉える多様な視点がもてる内容になっているか		「イメージを伝える形」では、静岡県プラモデル計画のロゴマークがSDGsの取り組みとして紹介され、地域を活性化する遊び心にあふれたプロジェクトを紹介している。また、様々な県の県章を示し、その下にクイズ形式で楽しそうに鑑賞活動をしている様子が示されている。	○	「文字で楽しく伝える」では、名古屋弁の手提げ袋のデザインについて、そこに描かれる書体に名古屋城の屋根の形が取り入れられていることが解説されている。またあえて崩した書体を示し、書体から受ける印象について広く考えさせる内容となっている。様々な地域の特徴を示すロゴマークも示されている。		「文字が生み出すメッセージ」では、名古屋弁の手提げ袋やアニメ「進撃の巨人」、漫画「リボンの騎士」など新旧のデザインを織り交ぜて示している。ほかにも、文字絵やオノマトペ、ロゴタイプなど文字を使った様々な表現の参考作品が掲載され、そのモチーフも動物や果物、水など自然物で示されている。
造形的な見方・考え方を働かせることができる内容になっているか		「鑑賞ってなんだろう」では、著名な作家がつくった作品、皆さんが思いを込めて作った作品を示し、自分にはない捉え方や考え方を模倣したり、作品鑑賞を通して友達を深く理解させたりすることができるようになっている。また、鑑賞活動のアプローチについて詳しく示している。		「美術鑑賞を楽しむ手がかり」では、どのように美術作品を鑑賞するかについて4項目に分けて示している。また、国語科との関連として、[印象を表す言葉][気持ちを表す言葉][美術でよく使われる言葉]で自分の感じ方を表現する言葉を補助する働き掛けがされている。	○	各題材のはじめに「鑑賞の入り口」という形で造形的な見方・考え方に気付かせるための問い掛けがある。 「鑑賞との出会い」では、鑑賞を「作品」から、「美術作品」から、「身近な生活から」と場面に分けて示しており、友達の作品と文化財、自分の身の回りで目に入るものをどのように捉えるべきかが示されている。

※ 事項ごとに、特に優れている教科書には評価の欄に○をつけています。